

北海道医歌人会詠草

JR留萌本線 (2)

北広島 古屋雅三知

恵比島を過ぎれば峠に差し掛かる 曲がりくねりて軌む鉄輪
春浅く雪融けやらぬ山間を走る単線 峠を越えて
目に映ゆる五つの文字は『ありがとう』 雪に書かれし 幌糠の駅
終点の留萌の先は鉄路錆び舎熊・増毛は遠くになりぬ
また一つ鉄路は消えぬ 最果てに100と余年の歴史刻みて

青葉園

函館 水関 清

執念でゴールラインに脚伸ばし 1ミリの運 掬ひ上げたり
弧を描き せり上がりゆく頂点に 月の近づく大観覧車
「きょうぼくはテレワークする」と登園を しぶりし幼な はや小学生
「春一番」「微笑がえし」で 満ち足りた あの春の後楽園球場
クアン・フー・カウ村の伝統は美し 路傍に香る 竹線香の花

くらヌード 士別 竹内 幹夫

あどけなき口元の笑み眼を細む 久しぶりなる来賓の朝
この人はこんな顔かと瞳目す マスクなきかほみな美しき
デパコスでヌードカラーを勧められ サクラリップにほつとうなづく
口紅の周りの肌はほの白く 薄めが素敵と君に囁く
仕上げしてお似合いですねと笑顔する 美容部に口元は無し

記憶の中の大震災 滝川 村田 英俊

地球よ いまどんな気持か 速報のM6.7 かなり揺れている
大震災 日ごとに死者の数ふえぬ 数える側に我は居るなり
市役所が聖地に見ゆる断水と停電つづく大震災の夜
断水の終りて 熱いコーヒーを淹れば踊り出したい気分
余震減り 水と電気の戻りても店にもことなく 人に笑顔なし

涙 江別 三宅 浩次

優しさとずるさの二つ併せ持つ人の世をゆく無情の知恵か
心には神と悪魔が住み着いて時と場合を秤にかける
嬉しさと真逆のときの悲しさでいずれも溢れる涙の不思議
歳ゆけば強がる心も衰えて思わぬ涙にふと気づく我
涙腺は体の機微の面白さアンビバレントはこのことなのか

スノウドロップ 札幌 浜島 泉

庭に咲くスノウドロップ 道を行く人は装い殊にフレツシユ
昨日朝雪を払ひしキヤラの枝 今日空をば見上ぐる姿
季節めく木々のみならず 街を行く新社会人の足並み豊か
メモを見てバス路線図を確かむる バッグ艶やか初出勤の人
学校の前のバス停降りてゆく 新学期前新教師にや

UNE VIE 釧路 兎玉 昌彦

満々と涙たたる湖かかえさざ波立てばただらにあふれて
危惧したる再発・闘う暇なく卒然と逝けり四十五の春
夫と別れ新たな一歩踏み出せし足未だ地につかざる時に
自由求め風の歌数多遺したる君は自ら風となりしか
女として自己充実求めたくましく生きぬきし証 二冊の歌集